



# 関西経済レポート (11月号)

- 9月の鉱工業生産指数(確報値)は前月比+2.4%と上方修正されたため、7-9月期は前期比+0.1%と僅かに増産に転じた。足下、10月近畿の実質輸出は前月比プラスとなっており、来月は増産が期待される。
- 10月の貿易動向は輸出の伸びは32カ月ぶりのマイナス。原油価格の下落を反映し、輸入は2カ月連続のマイナス。結果、貿易収支は8カ月連続の黒字。
- 10月の消費者態度指数は2カ月ぶりに改善したが、小幅にとどまる。一方で、景気ウォッチャー調査は4カ月連続の悪化。クリスマス・年末商戦への期待から先行きは上昇。
- 10月の大型小売店の販売額は、7カ月連続の前年比増となり伸びは加速。一部、インバウンドの好調も反映し、堅調な伸びが続いている。
- 10月新設住宅着工戸数は前年比+19.0%と3カ月ぶりに大幅増加。
- 10月の有効求人倍率は横ばい。完全失業率は7カ月ぶりの改善。就業者数の増加がみられ、雇用情勢は堅調である。
- 10月の公共工事請負金額は前年比-18.2%と4カ月連続の大幅マイナス。9月の建設工事は同-2.4%と7カ月ぶりのマイナス。公共工事は減少トレンドが続いている。
- 中国11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は3カ月ぶりに前月から悪化し、4カ月連続で50を下回っている。一方、非製造業購買担当者景況指数は4カ月ぶりに前月から改善した。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。  
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所  
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

## ～ 関西経済のトレンド ～

	2014年		2015年										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生産	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↓	↑	→	↓	↑	—	—
貿易	→	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	—
センチメント	↓	↑	↑	↑	↑	→	↓	↑	↓	↓	↓	→	—
消費	↑	↑	→	↑	↓	↑	↑	→	↑	↑	↑	↑	—
住宅	↓	↓	↓	↓	→	↓	↑	↑	→	→	→	↑	—
雇用	↑	↑	→	→	→	↑	↑	→	↑	↑	↑	→	—
公共工事	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↓	↑	↓	↓	↓	↓	—
中国	↓	↓	↓	→	↓	↓	→	→	→	↓	→	→	→

## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

# ～生産～

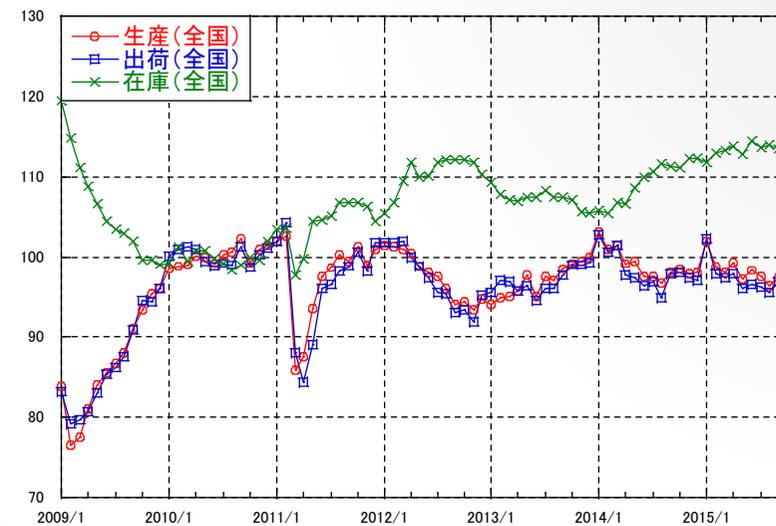
鉱工業指数の推移（近畿・2015年9月まで）、2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における9月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)は、生産が102.8で前月比+2.4%、出荷が101.6で同+2.9%、在庫は118.6で同+0.5%といずれも2カ月ぶりの上昇。
- 業種別にみると、化学(同+7.9%,2カ月ぶり)、電気機械(同+11.2%,2カ月連続)、金属製品(同+15.5%,2カ月ぶり)等は増産となった。一方、輸送機械(同-5.4%,2カ月ぶり)、情報通信機械(同-13.2%,2カ月ぶり)、窯業・土石製品(同-4.4%,2カ月連続)等が減産となった。
- 7-9月期の生産は前期比+0.1%と僅かに増産となり、速報値の2期連続の減産(同-0.3%)からは幾分上方修正となった。足下、10月近畿の実質輸出はプラス(前月比+0.9%)となっており、来月は増産が期待される。しかし、全国の製造工業生産予測調査による生産見込みが弱いことから、今後は堅調な生産増は期待しにくい。

鉱工業指数の推移（全国・2015年10月まで）、2010年=100



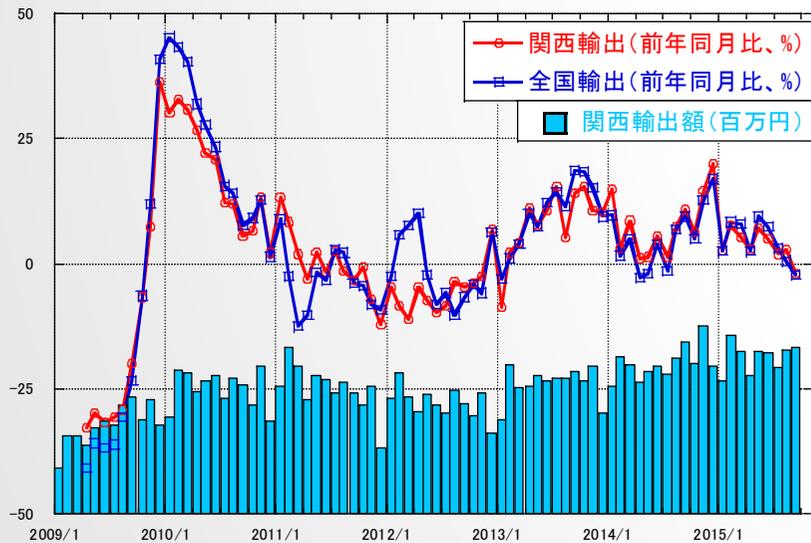
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における10月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は98.8となり前月比+1.4%、出荷は98.8で同+2.1%といずれも2カ月連続の上昇。結果、在庫は111.4で同-1.9%と2カ月連続で下落した。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+5.8%,4カ月ぶり)、輸送機械(同+4.0%,2カ月連続)、電子部品・デバイス(同+2.4%,2カ月連続)等が増産となった。一方、化学(除.医薬品)(同-1.1%,2カ月ぶり)、情報通信機械(同-3.5%,2カ月ぶり)、非鉄金属(同-2.8%,2カ月ぶり)等は減産となった。
- 今月の製造工業生産予測調査では、11月は前月比+0.2%の小幅増産が予測されているが、12月は同-0.9%の減産。見込みが実現した場合、10-12月期の生産は前期比+1.6%のプラスが見込まれる。

# ～輸出入～

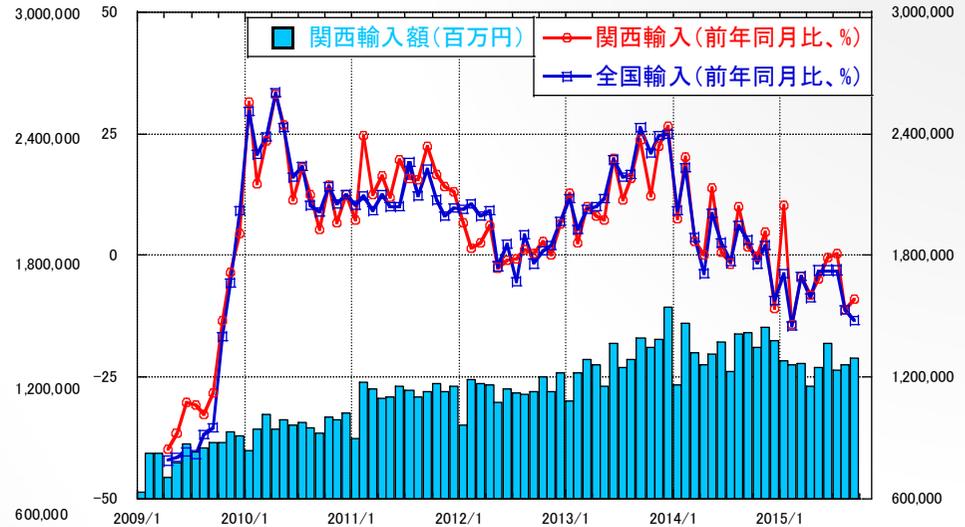
輸出動向 (右: 輸出額、左: 前年同月比) (2015年10月まで)

輸入動向 (右: 輸入額、左: 前年同月比) (2015年10月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西10月の輸出額(速報値)は1兆3,982億円。前年同月比-1.9%と32カ月ぶりの減少。
- 財別に見れば、有機化合物、鉄鋼の輸出が減少した。一方、通信機(単月過去最高額)、半導体等製造装置は増加した。
- 全国10月の輸出額(確報値)は6兆5,425億円、前年同月比-2.2%と14カ月ぶりの減少。財別に見れば、船舶、有機化合物、鉄鋼の輸出が減少した。一方、自動車は増加した。
- なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は119.98円と前年同月比10.7%の円安であった。

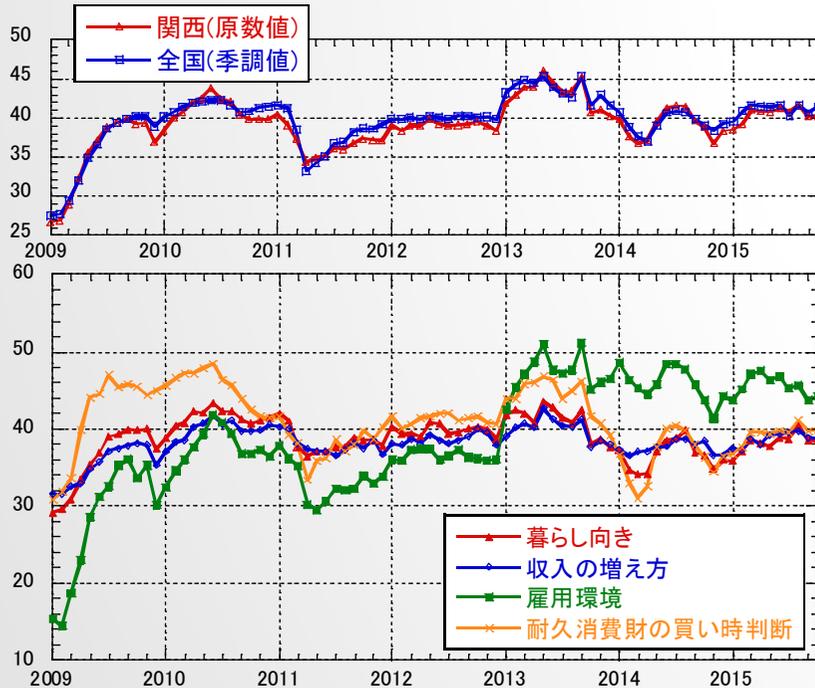


(出所) 財務省「貿易統計」

- 関西10月の輸入額(速報値)は1兆2,973億円、伸びは前年同月比-8.8%と2カ月連続の減少。
- 財別に見れば、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガスが減少した。一方、科学光学機器(過去最高額)、医薬品(単月過去最高額)は増加となった。
- 全国10月の輸入額(速報値)は6兆4,342億円、前年同月比-13.4%と10カ月連続の減少。
- 財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少している。一方、医薬品は増加となった。
- 結果、10月関西の貿易収支は+1,011億円と8カ月連続の黒字。黒字幅は前年同月比+4382.1%と40倍以上に拡大した。全国の貿易収支(確速値)は+1,083億円と7カ月ぶりの黒字となり、前年同月から+8,501億円改善した。

# ～消費者センチメント～

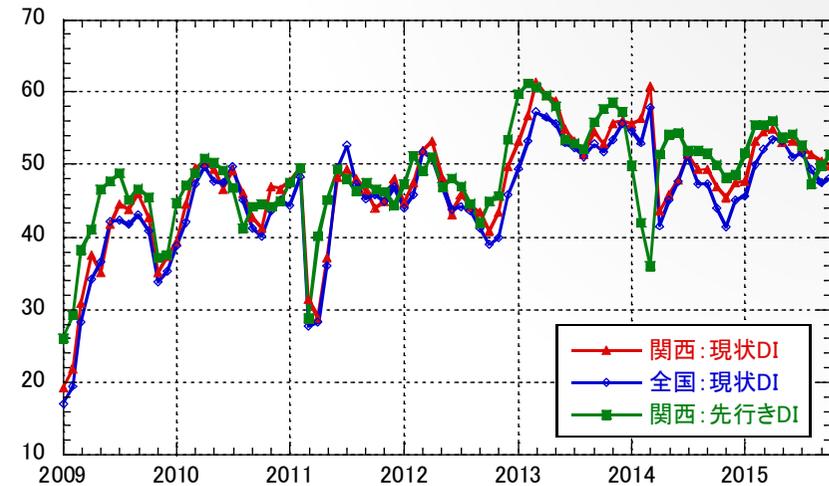
消費者態度指数(2015年10月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

- 関西の10月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.1ポイントの40.3と小幅改善。2カ月ぶりのプラス。全国(季節調整値)でも同+0.9ポイントの41.5とこちらも2カ月ぶりの改善。ガソリン価格の下落や食料品の値上がりが一服したことによる。これを受け、内閣府は基調判断を「足踏みが見られる」に3カ月連続で据え置いた。
- 関西で同指数の構成項目をみると、4つの意識指標のうち、「雇用環境」が同+0.5ポイント、「耐久消費財の買い時判断」が同+0.1ポイントと、いずれも2カ月ぶりの改善。一方、「暮らし向き」は同-0.2ポイント、「収入の増え方」は同-0.1ポイント低下し、いずれも2カ月連続の悪化となった。消費者心理の動きは弱い。

景気ウォッチャー調査(2015年10月まで)

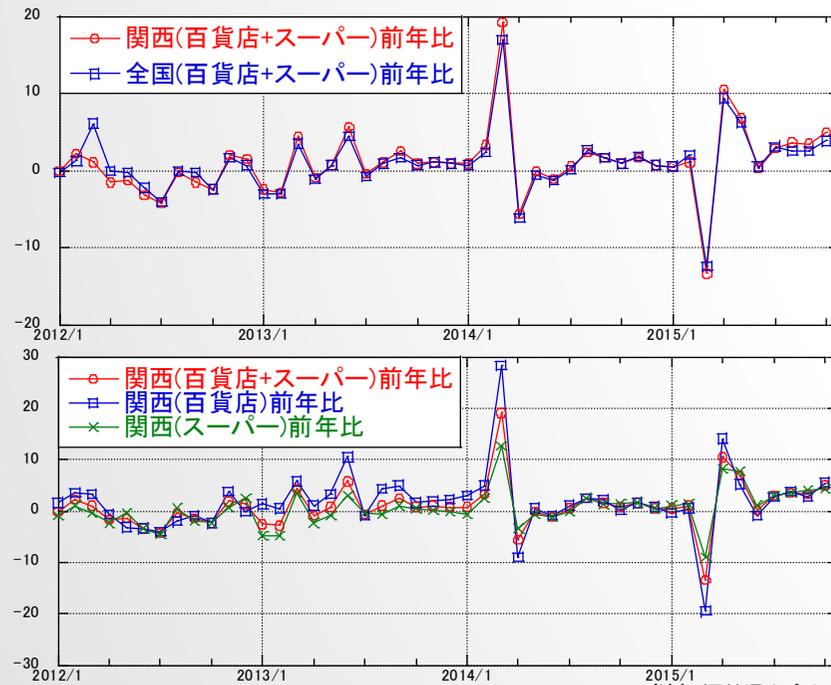


(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の10月の現状判断DIは前月比-0.6ポイント低下の49.9となり、4カ月連続の悪化。景況感の良し悪しの分かれ目となる50を9カ月ぶりに下回った。スーパーや衣料品専門店を中心とした客足の減少など、消費者の節約志向が悪化に寄与した。全国は同+0.7ポイント上昇し48.2となり、3カ月ぶりの改善となったものの、50を下回る状況が続いている。
- 一方、先行き判断DIは、関西では51.4と前月比+1.5ポイント上昇し、2カ月連続の上昇。中国経済減速への懸念はあるものの、クリスマス・年末商戦の盛り上がりに対する期待が先行き見通しを押し上げた。

# ～個人消費・住宅～

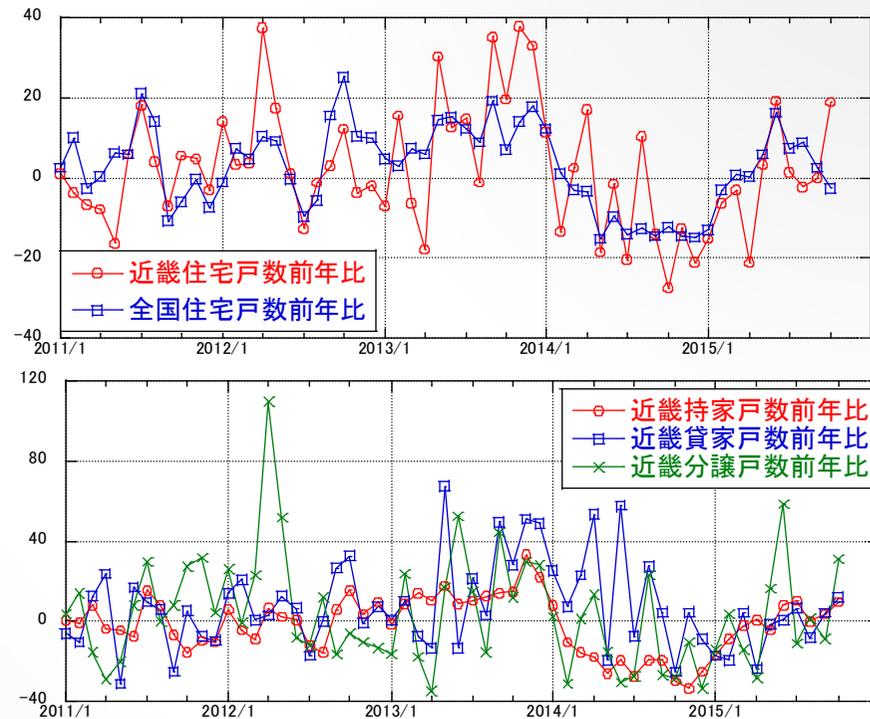
大型小売店販売額（前年同月比：％、2015年10月まで）



(注) 福井県を含む。  
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

- 関西10月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+5.0%増加。7カ月連続のプラスとなり、伸びは前月(同+3.5%)から加速。
- 百貨店は同+5.7%増加し、4カ月連続のプラス。
- スーパーは同+4.5%と7カ月連続のプラス。
- 全国の大型小売店販売額(10月、全店ベース)は同+4.0%と7カ月連続のプラス。
- 関西、全国共に消費は、一部、インバウンドの好調も反映し、堅調な伸びが続いている。

新設住宅着工(前年同月比：％、2015年10月まで)

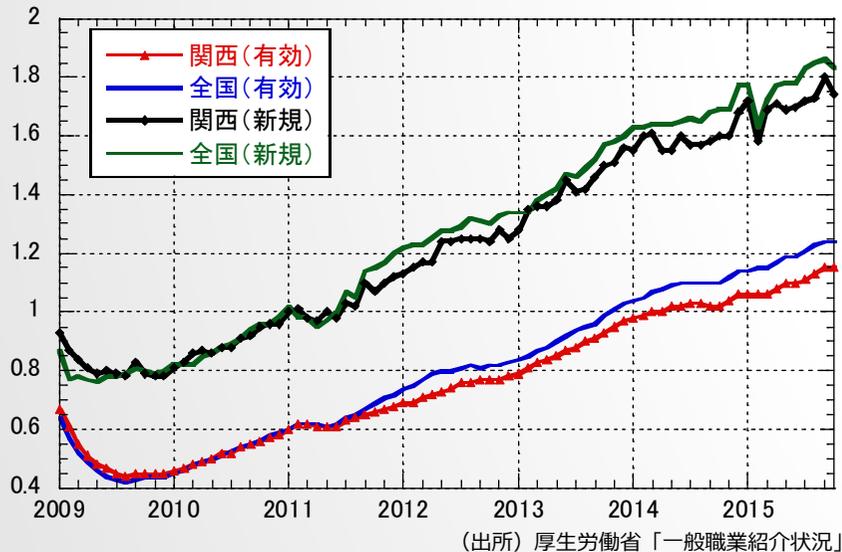


(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

- 関西10月の新設住宅着工戸数は12,872戸。前年同月比+19.0%と大幅増加し、3カ月ぶりのプラス。
- 全国は77,153戸、同-2.5%減少し8カ月ぶりのマイナス。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は3,149戸の同+10.0%と5カ月連続の増加、貸家は4,941戸の同+11.8%と2カ月連続のプラス。分譲は4,503戸、同+31.4%増加し、2カ月ぶりの大幅プラス。
- 10月の関西マンション契約率は67.9%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安となる70%を2カ月連続で下回った。首都圏は79.7%(季節調整値、APIR推計)となった。
- 足下、関西の新設住宅着工は大幅増加となったが、マンション契約率は低調が続いている。

# ～雇用～

求人倍率の推移 (季節調整値、2015年10月まで)

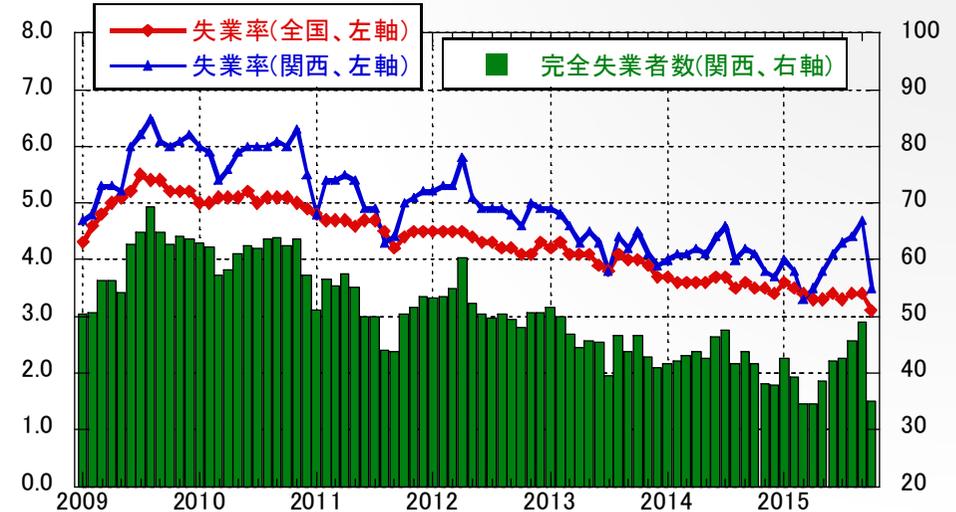


関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2015年10月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
10月	1.24	1.15	1.09	1.24	1.23	1.03	1.00	1.08
9月	1.24	1.15	1.07	1.24	1.22	1.02	1.02	1.12

- 10月の関西の有効求人倍率は、1.15倍で前月比横ばい。1991年8月(1.15倍)に並ぶ高水準が続いている。全国は1.24倍でこちらも同横ばいとなった。雇用情勢は引き続き堅調である。
- 府県別では、全ての府県で3カ月連続の1倍台。滋賀県では前月比+0.02ポイント、大阪府・兵庫県では同+0.01ポイントの上昇。一方、京都府は横ばい、和歌山県は同-0.04ポイント、奈良県は同-0.02ポイント低下した。
- 10月の関西の新規求人倍率は、1.74倍と前月比-0.06ポイント低下。全国は1.83倍と同-0.03ポイント低下した。
- 関西の産業別新規求人数は、中国の国慶節休暇と重なったことなどから、宿泊・飲食サービス業(4カ月連続の2桁増)、卸売・小売、生活関連サービス等インバウンド関連産業を中心に増加。

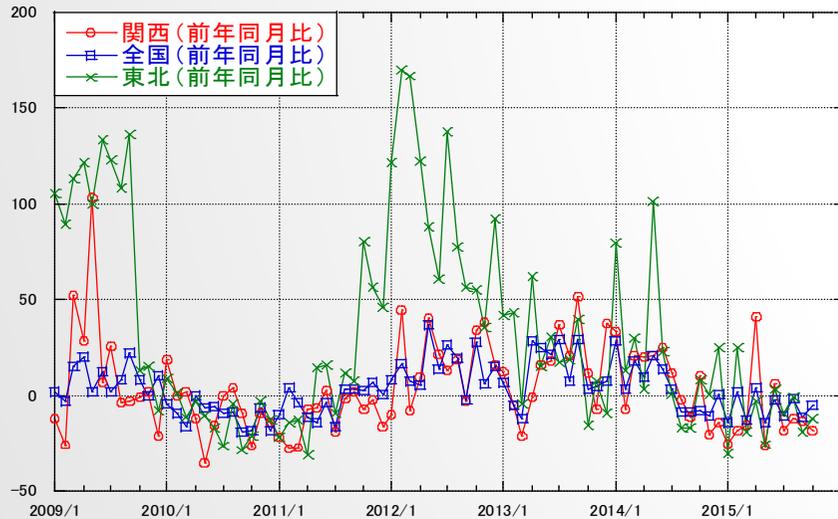
完全失業率の推移 (季節調整値：%、万人、2015年10月まで)



- 10月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は3.5%で前月(4.7%)から-1.2%ポイント大幅低下し、7カ月ぶりの改善。就業者数(季節調整値)が増加し、雇用拡大の動きがみられる。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は35.0万人で前月から14万人減少した。7カ月ぶりのマイナス。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.1%と前月から-0.3ポイント低下し、3カ月ぶりの改善。1995年7月以来の低水準。完全失業者数(季節調整値)は206万人と前月比-22万人減少した。男女ともに失業者数は減少したが、非労働力人口の増加が背景にある。
- 15～64歳の就業率(原数値、全国ベース)は74.0%と、比較可能な1968年以降で最高となった。

# ～公共投資～

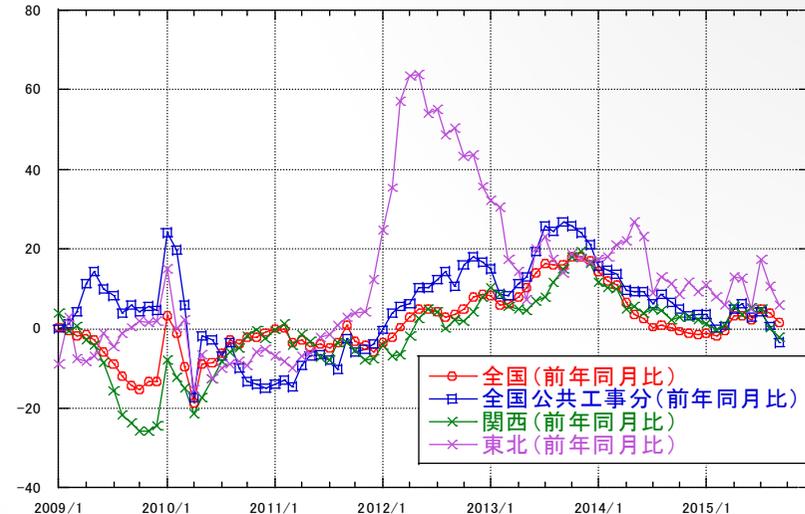
公共工事請負額(前年同月比：%、2015年10月まで)



(注) 福井県を含む。  
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西10月の公共工事請負金額は1,230億円で前年同月比-18.2%と4カ月連続で2桁のマイナスとなり、前月(同-13.4)から更に減少した。
- 全国は1兆2,530億円で同-4.8%と6カ月連続のマイナス。
- 東北は2,242億円で同-11.6%と4カ月連続のマイナスとなった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に4カ月ぶりに前月から増加となった(関西：同+2.5%、全国：同+3.0%)。
- 公共工事は減速トレンドが続いている。

建設工事(前年同月比：%、2015年9月まで)

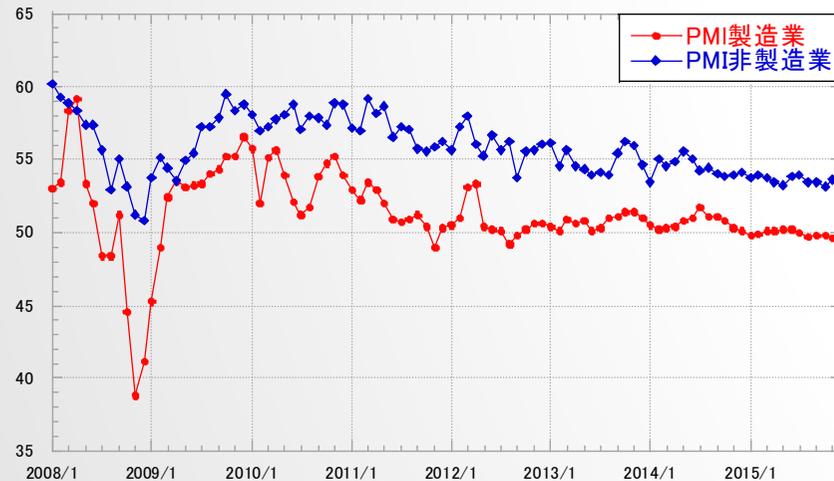


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西9月の建設工事は5,210億円、前年同月比-2.4%と7カ月ぶりに減少に転じた。
- 東北は6,076億円、同+6.2%と50カ月連続の増加。
- 全国は4兆4,028億円となり、同+1.6%と6カ月連続の増加。うち、全国の公共工事は1兆8,657億円で同-3.5%と44カ月ぶりのマイナスとなった。
- 全国で見れば、公共工事の減速トレンドが本格化してきている。関西の建設工事もマイナスの伸びに転じた。建設工事は停滞している。

# ～中国経済動向①～

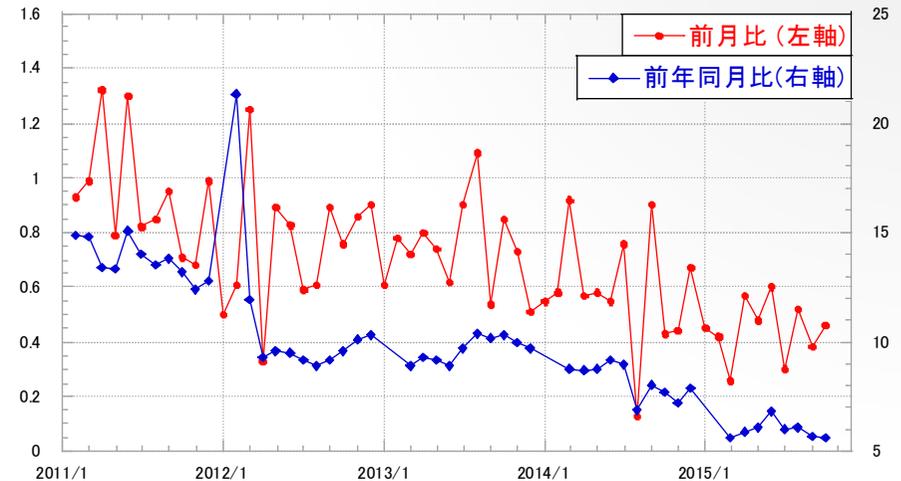
製造業購買担当者景況指数 (2015年11月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.6となり、前月から-0.2ポイント下落し、3カ月ぶりの悪化。また、4カ月連続で50を下回った。一方、非製造業購買担当者景況指数は53.6となり、前月から+0.5ポイント上昇。4カ月ぶりの改善。
- 製造業のうち、生産指数は51.9となり、前月から-0.3ポイント下落し、2カ月連続の悪化。新規受注指数は49.8となり、同-0.5ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。また、輸出新規受注指数は46.4となり、同-1.0ポイントと大幅に下落。2012年8月(46.6)以来の低水準である。雇用指数は47.6となり、同-0.2ポイント下落。2カ月連続の悪化。

工業生産指数(2015年10月まで：%)

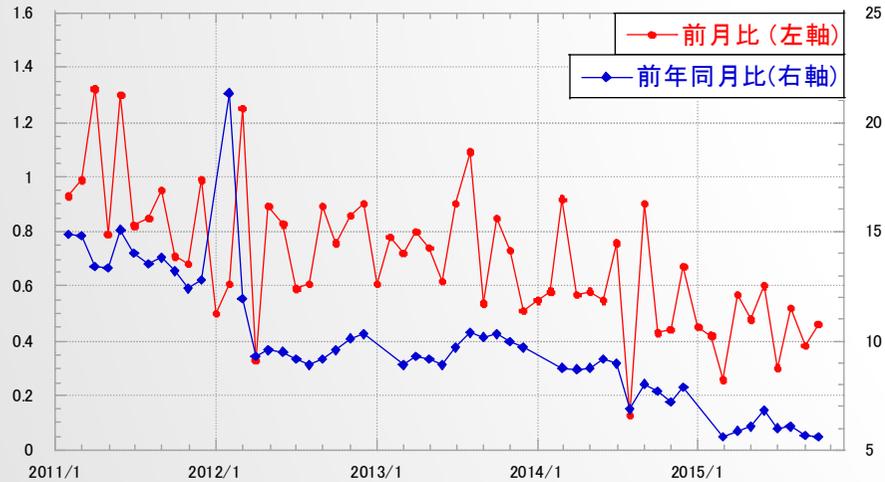


(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 10月の工業生産は前月比+0.46%となり、前月から+0.08%ポイント上昇した。一方で、前年同月比は+5.6%となり、伸びは前月から-0.1%ポイント下落し、3カ月連続の減速である。
- 産業別に見ると、有色金属圧延加工業(同+12.1%)、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+11.7%)、医薬製造業(同+10.0%)、化学原料・製品製造業(同+9.5%)等が高い伸びを示す一方で、通用設備製造業(同+1.7%)、鉄道・輸送機器製造業(同+0.7%)等は比較的低調な伸びにとどまり、電力・熱力生産・供給業(同-1.4%)はマイナスとなった。注目すべき自動車製造業は+7.3%となり、伸びは前月から+4.6%ポイント上昇した。

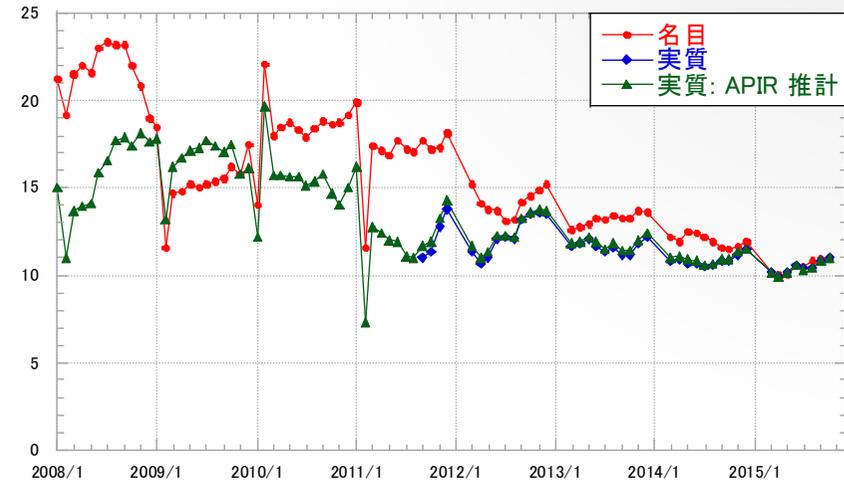
## ～中国経済動向②～

固定資産投資 (2015年10月まで：%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

社会消費品小売総額 (2015年10月まで：%)



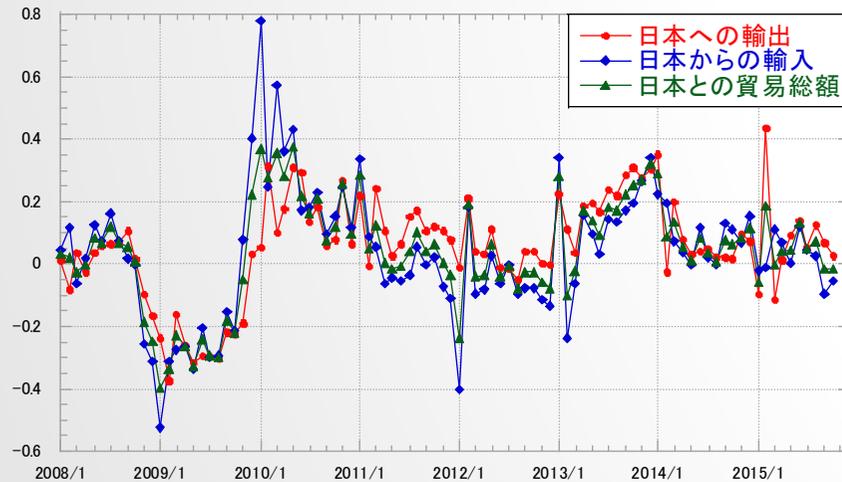
(注) APIR推計値は小売価格指数を用いて推計  
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 1-10月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+10.2%、伸びは4カ月連続の低下となった(1-9月期:+10.3%)。2014年後半以降急激な減速が続き、2000年12月(+9.7%)以来の低水準となった。
- 産業別にみれば、第1次産業は同+28.1%、1-9月期(同+27.4%)より+0.7%ポイント増加。第2次産業は同+8.0%、1-9月期(同+8.0%)から横ばい。第3次産業同+11.0%(1-9月期:+11.2%)、4カ月連続の減速である。

- 10月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+11.0%、3カ月連続で幾分加速しているが、昨年通年の伸び(同+12.0%)を依然下回っている。

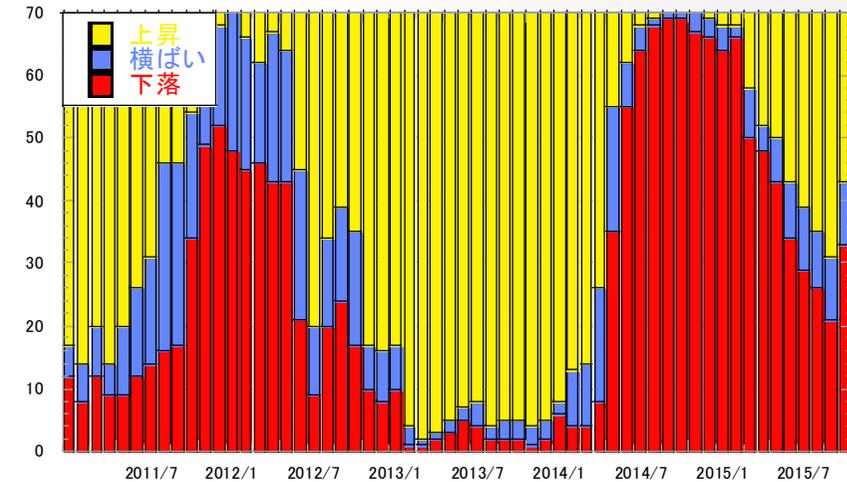
## ～中国経済動向③～

日本との貿易 (前年同月比：円ベース)(2015年10月まで：%)



(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年10月まで：都市数)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 10月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-7.0%と4カ月連続のマイナス。減少幅は前月(同-3.8%)より拡大した。輸入額は同-19.0%(速報値)と内需の低迷を反映し12カ月連続のマイナス。
- うち、日本への輸出額は同-7.7%と8カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-15.0%と12カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+2.6%となり、7カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同-5.5%、2カ月連続のマイナスとなった。
- 不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、10月は33都市で前月から下落した。27都市で同上昇、10都市で横ばいとなった。下落した都市の数は8カ月ぶりの上昇となった。
- 地域別に見ると、1級・2級都市はやや回復している一方で、3級・4級都市では住宅需要が依然弱く、不動産の市況は楽観視できない。

## ※関西経済のトレンド 評価基準について

- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。